



# とつか 2021年5月会報 第319号

2020 国際会長(IP) Jacob Kristensen (デンマーク)

主 題 “VALUES, EXTENSION and LEADERSHIP” (価値観、エクステンション、リーダーシップ)

スローガン “TRUST IN THE RIVER OF LIFE” 「命の川を信じよう」

アジア太平洋地域会長(AP) David Lua (シンガポール)

主 題 “Make A Difference” 「変化をもたらそう」

スローガン “INSPIRE” 「奮い立たせよう」

(甲府の大会は

東日本区理事 (RD) 板村 哲也 (東京武蔵野多摩)

主 題 「変化をたのしもう！」 “Let's enjoy Changes.”

リモート方式で)

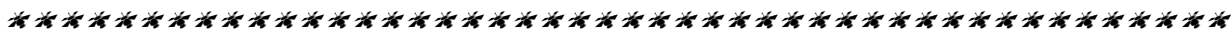
副 題 「助け合い、分かち合い」 “Let's help and share each other.”

2021 湘南・沖縄部部长(DG) 古田 和彦 (横浜)

主 題 「クラブを超えてワイズ間の交流を図り、共に YMCA に仕えよう」

クラブ会長 若木 一美 会長主題 「咲かそう 人の輪」

副会長 吉原 訓 書記 加藤 利榮 会計 岡 進



## 会員ひと言

### ☆変化の時☆

有田 征彦

### ◎今月の聖句◎



新型コロナウイルスの感染拡大が私たちの日常を一変させてから1年以上が過ぎました。この1年間、誰もが経験したことのない不安や恐怖を抱え、少し先のことも想像がつかない中で、今出来る事一つひとつ行動してきた時間でした。その中で思うことは、コロナ禍で直面している課題の多くは、元々からあった課題だということです。決して先送りしてきた訳ではないのですが、取り組まざるを得なくなっているのではないのでしょうか…。苦しみや不安の中にいる多くの方のことを思うと、この未曾有の事態をポジティブに捉えることはできませんが、一つの機会と捉え、スピード感をもって変化をしていく時なのかもしれません。例えば、1年半前、これ程、オンラインによる会議やコミュニケーションが広がると、誰が予想していたでしょう…。対面によるコミュニケーションに比べて寂しさや物足りなさもありますが、反面、メリットもあるのは確かです。オンラインコミュニティ、テクノロジーの活用はコロナ禍、確実に選択肢のひとつとして浸透しました。今、正に人も組織も柔軟なしなやかさを持ちながらも、スピード感を持って様々な課題に対応し、変化を進める時だと感じています。

私に向かって、「主よ、主よ」と言う者が皆、天の国に入る訳ではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。

—マタイによる福音書第7章21節—

名ばかりのクリスチャンや口先ばかりの信仰者は、天国に入ることは許されぬという厳しい警告です。

五旬節(ペンテコステ)の月を迎え、愛を柱とする律法を授けられた記念すべき時に、日ごろ私たちはいっそう謙虚に・静かに反省しましょう。



強調月間 EF/JEF

EF/Endowment Fund 国際ワイズ発展のための特別基金、国際協会が管理・運用する。US\$120以上を寄付すると、国際ゴールデンプックに記帳される。区の国際・交流事業主任が担当する。また、JEF/Japan East Y's Men's Fund 東日本区ワイズ基金のこと。区の継続した奉仕活動を支えるための基金、区の資産となる。拠金をすると、区に備え付けの「奉仕帳」に記帳される。基金委員会が促進・管理に当たる。この基金は、1975年開催の第51回熱海国際大会の際の積立剰余金(いわゆるアタミ基金)がもとになっている。

会員数	4月・中止	出席率	ファン	B	F	B	F	CS・TOP・A S F	B A P Y	ロ	バ
メ	12	メ	他	(円)		(g)		(円)	(円)		(円)
ネット	9	ネット	前月迄		0		0	50,000	0		0
		ゲストら	当月		0		0	0	0		0
計	21	合計	累計		0		0	50,000	0		0

★強い義務感を持とう 義務はすべての権利に伴う★



部長主題は、「咲かそう 人の輪～明るく・楽しく・元気よく～」としました。

昨年2月、横浜港・大黒ふ頭から衝撃的な報道が流され、社会事情は一変しました。

「COVID-19」の出現です。あれから一年、

私たちは「咲かすな 人の輪」を強いられ、そこで急速に普及したのが「オンライン〇〇」「リモート△△」などと呼ばれる非接触型の媒体でした。

今期は、前年に急停車させられた事業の中から、実行可能な事業を企画・実践し、私たちの活動の原点“咲かそう 人の輪”を目指したいと思います。これは部だけではなく、各クラブにおいても工夫・実践していただきたいと考えます。

また一方で、電子情報媒体を用いた新規事業ができないか、準備を進めたいと思います。

重点目標としては、プログラムに参加する多くの市民と直接接する YMCA 職員との良好な関係を更に構築して、今、地域で求められていることを聴きとるなどして、私たちの活動に反映することにより、新たな課題が見つかることになるかと思えます。

次に、既存事業を見直し、目的を達成した事業は終了すること、継続が必要な事業は、現状に即するよう ➡

変革を進めること、クラブのメンバーだけではなく、参加者を含めて「計画⇒実行⇒評価⇒改善」をすることにより仲間が増えることを期待します。

そして、ドキドキ・わくわく・イキイキする活動を目指したいと思います。

所で、来期、東日本区は一般社団法人となる予定ですが、通常は既存団体を発展改組して法人となりますが、ワイズの場合は既存組織を残したまま法人化します。かつて、私も、関係する県民運動団体で、このことにより、会員が減少した組織がありました。法人格取得後数年は様々な課題が出ると思えます。6月に開催される代議員会の議題に‘法人化’が上程されます。ご意見をお持ちの会員さんは、5月末までに現クラブ会長の私までお寄せください。

7月から宜しくお願ひいたします。

(次期部長としての施政方針です。要はコロナ次第でしょうか…。)

若木内閣の陣容をご参考までに…。)

- ✦ 部 長: 若木一美 (横浜とつか) ✦ 地域奉仕: 日下部美幸 (厚木)
- ✦ 次期部長: 小松仲史 (厚木) ✦ 会員増強: 鈴木 茂 (横浜つぎ)
- ✦ 直前部長: 古田和彦 (横浜) ✦ 国際・交流: 伊藤康一 (沖縄)
- ✦ 書 記: 板崎淑子 (鎌倉) ✦ ユース: 久保勝昭 (横浜つるみ)
- ✦ 会 計: 岡 進 (横浜とつか) ✦ 担当主事: 阿部正伴 (厚木)
- ✦ 監 事: 峯尾 舜 (金沢八景)

新緑随想

☆悪夢が甦る…?☆

鎌倉クラブ 兵藤 芳朗



「ナマステ!」、鎌倉クラブの兵藤です。

ネパール語で「こんにちは」です。一昨年の4月に友人のネパール人ディーバックさんを鎌倉クラブの卓話者に招いて、ネパールについて話をしてもらいました。加藤さんもビジターで参加されました。あれから2年、今回はネパールでの体験をお話します。一年前になりますが日本では何十年ぶりに狂犬病で外国籍の男性が亡くなった(本国で犬に咬まれ、10か月後に死亡)、との新聞記事を見て、私には決して他人事ではないということでした…。

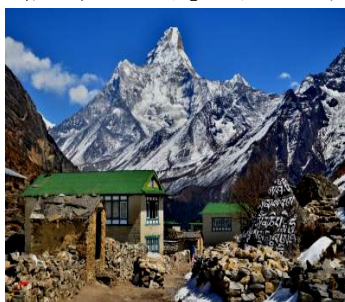
40年前になりますが、ネパールで野犬に咬まれた経験があります。4千メートルを超えるヒマラヤ山中を地元の少年と二人でトレッキングしていた最中に、ゴンパ(チベット仏教寺院)で野犬に遭遇したので逃げようとしたとき、右足のふくらはぎをガブリとやられてしまいました。

学生時代、何度もインド・ネパール・アフガニスタン方面に行っていて狂犬病の恐ろしさが分かっており、旅行中は犬に近づかぬように注意していたさ中の出来事です。直ぐ下山に掛かり、2日掛けて山の中腹のタンポジェの飛行場を目指しました。よりによってヒマラヤ山中で犬に咬まれるとは…、いっとき目の前が真っ暗になったことを覚えています。飛行場までの道中の心細さといったらありませんでした。着くなり係りに事情を話し、真っ先に小型機に➡

搭乗することが出来ました。空港は山の斜面に滑走路があって、谷底に向かって離陸する飛行場です。離陸時の怖さや景色を楽しむ余裕もまったくありませんでした。

カトマンズに着くと直ぐ、ビル・ホスピタルという総合病院に直行、「…犬を見ないことには狂犬病に罹っているか分からない、なぜ犬を連れてこないのか…!」と言われました。狂犬病は治療方法がなく、潜伏期間が長く、発症したら100%死に至る大変恐ろしい感染症で、当時は、早くて6日で異常が出るか、3週間から3年後に発症する場合もある、まあ6年間出なければ安心だ…と専門医師から言われました。治療後、ネパールでは精神病棟で2週間過ごすこととなるがどうか…と言われ、厚生省の友人に相談した処、東大医科学研究所の院長が熱帯病の権威で診察してもらえるとのことだったので、早速に帰国、診てもらいました。

その後、6年経過しても幸いに症状は出ず今日に至っています。お陰で、「狂犬病」と聞くと今でも悪夢が蘇ってきます。



～エベレスト街並みから見るエベレスト～



～集落からのヒマラヤの高峰～

## 【特別寄稿】

### ☆私とワイズとの関わり☆



東日本区書記 小山 久恵 (東京サンライズ)

今から 40 数年前、夫の父が東京山手クラブのメンバーになり、そのとき初めて、ワイズメンという組織を知りました。義父は、それはそれは楽しそうにワイズ活動について話し、例会日にはいそいそと出かけて行きました。私はバザーの前には値札付け、当日は売り子に駆り出され、BF 代表が東京にいらした時には、案内を任せられました。卓話も何度か聴きに行きました。そうして 10 年過ぎた頃、東京山手クラブが子クラブを作ることになり、メンバーの息子をその新クラブに入れようということになったそうです。それで夫は新クラブのチャーターメンバーとなりました。夫がワイズメンバーになるに当たり、妻はどのような役割を果たさなければならないか…ということを義母から縷々教えられました(心の中では大いに反発…)。設立総会の名簿には、妻の名前が備考欄に書かれていました。当時の東京サンライズクラブは、コメントが 5 人、ほとんどの人がアラフォー以下の若いクラブでした。

山中湖ワークキャンプの折には一家総出で参加し、他のメンバーも家族連れで、子供達も交流をもちました。区大会、アジア大会、国際大会に参加することで、他クラブの方々ともお知り合いになり、ワイズライフは楽しいものとなりました。その頃の大会には、皆さん着飾って、セレブの集まりの様でした。

私自身は 2000 年にメンバーとなったのですが、勤めが終わって例会に出席し、土・日の貴重な安息日にワイズのイベントに参加するのはかなり大変でした。現役で皆さんお仕事をなさりながらのワイズ活動の難しさが、身をもって分かりました。それでもワイズで多くのお友達ができたことは収穫でした。多くの皆さんが、この楽しさを味わっていただければ…と願っております。

(小山久恵様、お忙しい中 貴重なご寄稿を賜り有り難うございました。)

## レザン通信

### 横浜 YMCA ワークサポートセンターレザン 相馬 良文



ワークサポートセンターでは、昨年からの新型コロナウイルス感染症の影響を受け、「新しい生活様式」に沿ったカフェ運営を行っています。3月に空気清浄機を 2 台導入しました。現在、アクリル板の設置に向けての準備を進めております。

日常では、常連のお客様を中心に日に 5~6 組をお迎えしています。4 月から facebook による広報を再開しました。毎日の日替わりランチの紹介や「手作り品」のご案内などを、ほぼ毎日更新しています。ご来店いただけないお客様にもランチ気分を味わっていただければ…と思います。また、ご家族でのお食事は大歓迎ですので、是非お立ち寄り頂けますようお願い申し上げます。☎ 045・860・5252



## ☆コロナ禍でのエピソード☆

園長 木島 浩



YMCA 東とつか保育園は、JR 東戸塚駅から徒歩 10 分ほどの住宅地の中にあります。横浜新道に面しており、戸塚方面からですと川上インターのすぐ先の左側に見えます。園は、2005 年 4 月 1 日に定員 90 名で開園し、今年で 17 年目に入っています。

今回は、コロナ禍でのエピソードをお伝えいたします。例年、運動会やクリスマスなどの大きな行事は、土曜に保護者やご家族をお招きして賑やかな中で、子どもたちの成長を喜び・分かち合うときとなっています。しかし去年は“密”を避けるために、子どもたちだけで平日の保育の中で行いました。ご来場できないご家族には動画を YouTube で公開したり、DVD にして提供することにしたので、そのための撮影・編集・配信等の技術を学ぶことができました。しかし、そのこと以上に今まで見ることが出来なかった子どもたちの姿を受けとめる機会となったことは、私たちには大きな喜びでした。

クリスマスでは例年最年長の 5 歳児クラスが、ページェント(降誕劇)を演じますが、今回は大人に観てもらおう「本番」がないため、子どもたちも保育士たちも、出来るようになっていくプロセスを大切にすることが出来ました。(写真上)

練習中、上手く出来ない子がいると、どこからともなくガンバレ!という掛け声が聞こえてきます。失敗しても、「大丈夫だよ、次は頑張ろう!」という雰囲気伝わってきます。セリフを忘れた子がいたら、分かっている子が声を出して教えてくれます。子どもたちの優しさや思いやりが自然に表れてくる場面を何度も経験しました。

神さまからのクリスマスのメッセージは、決して劇を演ずることではなく、むしろこういうことであると思えました。これまで、私たち大人が、上手に出来る事ばかりに目が向き、見失っていたものに改めて気付かされました。

コロナ禍にあつて、このような経験をしながら、日々を過ごしております。



YMCA だより



☆対面でしか味わえない喜び☆

クラブ担当主事 瀬戸 敏孝

横浜 YMCA では、ヘルシーキッズ&ファミリーキャンペーンとは、子どもたちの健やかな心と身体を育む成長の支援、また家族で健康について考える機会として横浜 YMCA が実施するキャンペーンになります。コロナ禍で子どもたちの運動不足や体力低下などが社会における課題となっていますが、課題の解決に向けて、神奈川県下の YMCA において様々な取り組みを実施していきます。

4月29日には、キャンペーンスタートイベントとして湘南とつか YMCA では、1日体験イベントを行いました。感染対策に気を付けながら、約120名の方が参加されました。子どもから大人まで、親子で参加など様々でした。参加した皆さんは、「GWどこにも行けないから参加して良かった。」とか、「家族で身体を動かす良い機会になった。」と、とても満足気でした。何より、楽しそうな笑顔を直接見られ・肌で感じられたことがスタッフ一同感動しました。

この取り組みは、SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」にもつながります。今の状況でもできる限りの取り組みを今後も提供し、地域の方にとって魅力ある YMCA にしていきたいと思えます。



☆今月の歳時記から☆

‘筍 たけのこ’ と ‘新茶 しんちゃ’

‘たけのこ’、筍、竹の子とも書く。食用にされる竹は、一般に孟宗竹、淡竹(はちく)、苦竹(まだけ)、人面竹などである。晩春から初夏にかけて、地面に僅かに顔を出した頃、掘る(クラブの大方の皆さんは吉原ワイズ邸でご経験済み…?)。京都・乙訓郡の筍は、日頃の土入れ・草刈り、藁・木屑入れの甲斐あって有名に…。東京・目黒の筍飯も名物でした。

竹の子や幼き時の絵のすさび 芭蕉  
筍の目黒の美人ありやしや 子規

次に‘しんちゃ’、その年、新しく摘んで製造した茶のことをいう。走り茶ともいう。香気があり、新鮮な風味が珍重される。八十八夜(今年は5月1日)を過ぎて初夏のころ、市場に売り出される。新茶が出まわると、前年の茶は古茶となる。茶の産地としては、静岡・三重・京都などが有名。

宇治に似て山なつかしき新茶かな 支考  
新茶淹れ幽かにありし亡父憶ふ 楸邨

一午



☆5月・6月のこよみ☆

- >5/18(火) 第1・2例会:湘南とつかYMCA・17時
- >5/28(土) 横浜 YMCA 会員総会:時間等は追って
- >6/5(土) 第1例会・湘南とつかYMCA・17時
- >6/12(土) 第24回東日本区大会・甲府・13時
- >6/15(火) 第2例会・湘南とつかYMCA・17時

~Happy Birthday~  
柴原 和可さん 5月6日

【掲示板】

会長

◎ 5月・6月の会合について

- ア 上記のとおり予定していますが、開催の詳細については、予め、担当主事から早めに連絡します。
- イ YMCA 関係の会合についても同様です。

◎ 今年度内の活動記録写真の送付について

- ア 区からの要請に基づき、ブリテンに載った写真を5件、送付しておきました。
- イ 幼児サッカー大会支援・マスク贈呈・チャリティーラン支援・外国人専門学校生支援などです。

◎ 出席率算定の報告について

伊藤幾夫区会員増強事業主任からの照会により、例会の出席率について報告しておきました。

◎ 5月のYMCA-News ワイズ・コーナーはトツカの番に…

各クラブが輪番で担当しているコーナーです。YMCA 池田直子広報官宛て、原稿を送付しました。

マスクの話し

吉原 和子

最近たくさんのマスクが出回ってきました。YMCA でもロゴ入り・ウレタンマスクを1枚¥1,000で受付近くのカウンターで売っています。スーパーや洋品店でもカラフルなファッションマスクが溢れています。外出時には必ず付けるマスクですが、早足や階段などで息苦しくなり、チョット外して深呼吸をしたくなります。不織布、布ガーゼ、ウレタンなどいろいろな種類がありますね。最近、不織布と布やウレタンマスクと重ねて使うことを推奨しています。

不織布のマスクが性能的にはいいようですが、私は長く使用すると口の周りがチクチクしてきて肌荒れを起こします。そういう方、多いようですね…。私は柔らかい生地でメッシュ生地を裏にして息苦しさを軽減したマスクを自分で作り、普段使っています。マスクの使用が日常化している今、特徴や機能にとらわれず、‘楽しく’ストレスにならないマスクを目的に合わせて着用して、感染症対策をすればよいのではないのでしょうか…。



〈後記〉

新緑の季節到来…! ワイズも 心を拭って… と  
いきいたいところですね…。

Change! 2022~ (T/K)